

令和4年度岐阜県がん対策推進協議会 議事概要

1 日程：令和5年2月22日（水）～ 令和5年3月10日（金）

2 意見聴取者：

所属団体等	補職名	氏名	
1 岐阜大学大学院医学系研究科	疫学・予防医学分野教授	永田 知里	委員
2 中部学院大学	副学長 教授	片桐 史恵	委員
3 岐阜大学医学部附属病院	病院長	秋山 治彦	委員
4 岐阜市民病院	小児科部長	篠田 邦大	委員
5 岐阜県医師会	常務理事	山本 昌督	委員
6 岐阜県歯科医師会	副会長	松村 康正	委員
7 岐阜県薬剤師会	理事	土屋 辰司	委員
8 岐阜県看護協会	会長	青木 京子	委員
9 ハローワーク岐阜・(当事者)	就職支援ナビゲーター	岡本 記代子	委員
10 まるっけ会（岐阜市民病院小児血液疾患センター患者家族会）	代表	横幕 真紀	委員
11 岐阜県市町村保健活動推進協議会	保健師部会会長	中林 直美	委員
12 岐阜県国民健康保険団体連合会	常務理事	西垣 功朗	委員
13 岐阜市民病院	診療顧問（がん診療分野）	澤 祥幸	アドバイザー
14 岐阜大学医学部附属病院	がんセンター	牧山 明資	アドバイザー
15 岐阜労働局労働基準部健康安全課	課長	牧野 宏俊	オブザーバー
16 教育委員会特別支援教育課	課長	兒玉 哲也	オブザーバー
17 教育委員会体育健康課	課長	浦野 善裕	オブザーバー
18 西濃保健所	所長	河野 芳功	オブザーバー

4 内 容：

- 議事
1. 岐阜県のがんの現状と第3次計画の推進状況等について
 2. 第3次岐阜県がん対策推進計画の進捗状況（最新値比較）
 3. 各推進機関、庁内各課のがん対策に関する取り組みについて
 4. 次期計画の策定に向けて

<現在実施している取り組みに関する意見>

【分野1】がんの予防、【分野2】がん検診

- ・大腸がん検診の精密検査受診率が、他のがんに比べて際立って低い。要精密検査対象者が相対的に多いことによるものか、原因を分析して受診率向上対策を検討していく必要がある。（医療保険者代表）
- ・市町村を中心に各機関でがん検診の啓発等に取り組んでもらっているが、とにかく受ければ良いという考えで2年に1度で良いところを毎年受けたり、対象年齢より若くから検診を受ける等指針外の検診が行われていないか心配している。指針外の検診は過剰診断に繋がるため、指針に基づく検診を推進してほしい。（学識経験者）

【分野3】がん医療の充実、【分野4】緩和ケア

- ・ゲノム医療等の高度な医療体制について、「ゲノム医療については、国の動向を見守り、その結果を踏まえての拠点病院での実施の検討を行う」という具体的施策を挙げられ、保健医療課と拠点病院の具体的取り組み内容が書面に記載されているが、その取り組みの在り方や連携病院との在り方に差が見られる。医療機関ごとの、特質を生かしながらも、県下の病院で今以上に連携し、ゲノム医療の質の向上と医療体制整備を進めて頂きたい。（学識経験者）

【分野5】がんの相談支援及び情報提供、【分野6】治療と仕事の両立支援

- ・就労に関しては企業側にも知識が必要である。企業の理解とサポートで患者の生き方は変わってくる。小児に関しては親が治療に付き添うため、仕事を辞めざるを得ないケースもある。子どもに付き添う間、無給であるのは仕方ないにしても、また仕事復帰できる籍があると安心して子どものそばにいられるのではないか。（患者・家族代表）

【分野7】小児AYA世代のがんへの対応、【分野8】がん教育・普及啓発

- ・小児AYAの評価項目について小児AYA相談件数が少ないとのこと×（改善傾向が認められない）とあるが、成育医療相談支援センターへの相談件数は減ったが、それぞれの機関（各がん拠点病院）で対応できているのであれば良いと考える。相談件数に関しては必ずしも多いが○、少ないが×ではないのではないか。（患者・家族代表）
- ・女子学生向け子宮頸がん検診啓発リーフレットの送付は良い取り組みであると感じる。若い世代には抵抗のある検診だが、知識として持っていれば後の検診受診につながる可能性がある。（患者・家族代表）
- ・乳がんバスでの啓発活動も良い取り組みであると感じる。意を決して病院に行くのと、たまにショッピングモールでやっており、自己負担も0円できるというのでは、気持ちも金銭面での負担も違い、それがきっかけになり今後も継続して受診してもらえれば早期発見に繋がっていくと考える。（患者・家族代表）

＜次期計画の策定に関する意見＞

- ・【分野1】 がん予防の指標の1つである受動喫煙対策を実施している公共機関の割合は100%とあるが、公共機関での受動喫煙は法律で定められており、当たり前に行われるべきものである。次期計画策定時には、評価項目として他に適切なものはないか検討が必要。(学識経験者)
- ・【分野2】 がん検診の指標である「事業評価のためのチェックリスト」をすべて満たしている市町村数は毎年0となってしまう。これは市町村が何も取り組んでいないわけではなく、「すべて満たす」ことが難しいがために0という評価になってしまっている。国や他県の状況も踏まえ、市町村の取り組み過程や、実施状況の変化がわかる指標に変更してはどうか。(学識経験者)
- ・【分野5】 がん医療の技術が進歩し、治療成績が向上していく中であって、「医療的アプローチ」に加え、がん患者への理解促進や就労(継続)支援はもとより、アピアランスなども含めて幅広く「社会的アプローチ」からの全人的な観点に立ったがん対策の推進が課題である。次期計画では、「社会的アプローチ」からの施策に関しても充実強化していくべきではないか。(医療保険者代表)
- ・【その他】 各部内で精力的な活動が行われているが、ACP(人生会議)の活動、情報提供は殆ど見られない。コロナ禍で進行がんの治療中断、在宅看取りが行われる中、対応や情報提供が後回しになっているのではないか。(アドバイザー)

＜情報提供＞

薬剤師会より、各推進機関のがんに関する取り組みについて情報提供あり。

- ・【分野1】 実施機関：岐阜県薬剤師会
学校薬剤師が小学校における薬物乱用防止出前講座において、喫煙の害について啓発を実施している。引き続き啓発を実施予定。
- ・【分野3】 実施機関：岐阜市薬剤師会
各推進機関の取り組みについて分野3で薬剤師会においても以下の取り組みあり。
患者が抗がん剤の処方箋をどの薬局に持って行っても、同じように安心して薬物療法を続けられるようにし、副作用を医師等医療者との共通用語であるグレード評価(CTCAE)を用いることでより正確に伝えることにより、薬剤師と医療者全体で支援することを目的とした、「抗がん剤に関するトレーシングレポート」を進めている。

◎協議会での意見を踏まえ、今後も改善すべき課題に対しての取り組みを充実していく必要がある。来年度は第3次計画の最終評価、及び第4次計画の策定期間にあたるため、目標や評価項目の見直しを行う。